

武庫川源流を歩く

第 61 回武庫川エコハイク

(篠山口駅から南矢代駅まで) 120512 エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km²、篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の蓬川の西側が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門(むこみなと)」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は篠山市にある。篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川渓谷の急流となる。

篠山地方の地質 この地方の地質は約 2 億年前に海(湖)底にできたといわれる丹波層群で非常に固い地層である。

田松川の谷中分水界(こくちゅうぶんすいかい) 篠山口駅付近の田松川に珍しい谷中分水界がある。北は篠山川(加古川)、南は武庫川で 2 つの堰で仕切られている。田松川は明治 7 年に三田までの舟運のために開削された運河で工事の指揮をとった県の役人田中光義と松島潜の頭文字をとってつけられた。標高 200m で、三田市の丘陵地の標高とほぼ同じ。

壮烈な河川争奪 武庫川は河床勾配が緩やかな割りに、ここから三田盆地まではかなりの幅で沖積層があり、ここより上流にかなり大きな土砂の供給源があったことが推定できる。北側篠山盆地を流れる篠山川はかなりの集水面積を持ち、現在は川代溪谷を経て加古川に流れるが、20 万年前は武庫川に注いでいたものと考えられる。しかし武庫川と川代溪谷の河床勾配の差が大きく次第に流れは川代溪谷へ変わっていったことが考えられる。

初田 田松川から舞鶴若狭道をくぐると初田の集落、この辺りで初めて田を開いた所といわれ、中を流れる初田川に メダカの里(自然観察)がある。

八柱神社 仏教の守護者牛頭天王の子五男三女を祀る。初田の氏神。

森と竹林の荒廃 化石燃料、化学肥料の普及と農村の高齢化により里山が放置される。

槇ヶ峯 この山中の峯を槇ヶ峯と呼ばれ、極楽寺を中心に多数の堂宇があり千軒坊といわれたが、源平戦(下記)の際すべて焼き払われたという。

真南条 龍蔵寺谷東側の高山城の別名南城からきたという説がある。

国道 372 号線と京街道 亀岡―姫路を結ぶ。篠山市古市から福住までを「デカンショ街道」と命名されている。国道の南側を走る旧道は京街道、丹波街道、真南条街道。寿永 3(1184)年源義経軍が平家討伐のためこの街道を下り、三草山で平家軍を破り、一の谷の合戦に向かったという。真南条上に義経が社の前を騎乗して通り過ぎたため落馬し、神の怒りを静めるため馬の鞍を懸けたといわれる鞍懸山(聖塚)がある。

古市断層 御所谷断層、この国道に沿い、亀岡から社町につながる谷は古い断層帯である。

近畿自然歩道「丹波朝霧のみち」 龍蔵寺口バス停から龍蔵寺、愛宕山山頂を経て三田市母子へ抜け、篠山市城南小学校に戻る自然歩道約 1.5km。

田口池 寛政 12(1801)年から文化 6(1810)年の 9 年を費やして時の篠山城主青山公が築造された。近年 2 回にわたって大改修が行われ現在の姿になった。

武庫川流域 1228 個のため池中、貯留面積で 12 番目の大きなため池。

龍蔵寺 大化元(645)年法道上人が開祖、太平山天台宗の寺。全盛期には修験道の道場として 72 の寺坊があった。一説に太古多紀郡一体が沼地で大龍が住んであり、諏訪明神が開拓された際、この龍を退治された。そのとき龍は十一面観音になり、この地に祀られた。今は観音堂のみ。丹波の古刹十五ヶ寺の第一番。

武庫川源流 本流の最上流、真南条川、龍蔵寺川は愛宕山(太平山)、中尾の峰に囲まれた谷にある。分水嶺の南は三田市母子で武庫川水系青野川の源流地帯である。

愛宕山 武庫川の源流は愛宕山(648m)に発し龍蔵寺川となる。山中に愛宕堂があり、勝軍地蔵愛宕大権現が祀られている。火伏せの神さん。中尾の峰、三国ヶ岳をあわせて大平三山といわれ修験の場であり、急峻な道が続く

平成 8 年水害 平成 8 年 8 月この地方を襲った集中豪雨は龍蔵寺川に大規模な土砂災害をもたらし、龍蔵寺の堂宇を押しつぶした。復旧工事は平成 15 年に完成。谷川は 2 面張りになり直線化された。生物の生息環境には配慮されている。

真南条川 田口池から下流は真南条川となり、流下する。

農業構造改善事業(圃場整備) 農業の生産性向上のために始まった農業構造改善事業は 1 枚の田の規模を大きくし農業機械の導入を容易にすると同時に、用水路と排水路を区分し、湿田から乾田に転換し二毛作も可能にしたが、田と水路との連続性がなくなり、生物の多様性が失われてしまった。

真南条二村神社 元亀年間(16 世紀後半)見内二村神社の座争いで御神像を持ち去りここに祀った。

願勝寺 もと真言宗の寺、槇ヶ峯千軒坊の末寺であったが、戦火で焼失し、曹洞宗の寺として再興された。本尊薬師如来。寺前に「鼻利き助太郎」伝説地。

栗栖野 栗を栽植したことから名がついたという、裏山に栗栖野城があった。

残石公園 篠山城築城時に栗栖野地範より採石された石を運んだが、一部の石が残され、残石公園に置かれている。

ふるさと桜づつみ回廊 兵庫県が日本海と瀬戸内海を結ぶさくら回廊を作ったが、武庫川では舞鶴若狭自動車道の東側の真南条川から始まり、河口まで続く。

浸水常襲地 武庫川起点近くの水田は武庫川の流下能力が低いため、大雨の度に真南条川等が溢れて浸水被害が起こっている。この辺りは貴重な生物が生息するので、地域住民、県立人と自然の博物館も加わって生物環境に配慮した河川改修が行われた。

武庫川起点 真南条川と田松川の合流点が武庫川の「起点」となっている。合流点の両岸に「起点」の標石が建てられている。これは 2 級河川武庫川の兵庫県の管理区分を示す。

高仙寺 天台宗松尾山高仙寺。南矢代駅の西側にある高仙寺は西側の松尾山(687m)に龍蔵寺と同じく大化元年(645)法道上人が山上に庵を結び、最盛時は 25 坊を数える大寺院であったが、明治維新の廃仏毀釈で荒廃し、大正年間にこの地に移った。